

「ぼ～れぼ～れ」通巻 405 号所載

認知症カフェを話題に

三郷のつどい 2/22 (土) 13:30～

地域包括支援センターみさと南 参加者17名

自己紹介の後、クリニックふれあい早稲田の大場先生が 65 歳未満で発症する「若年性認知症」のケアについて話されました。早い時期には、うつ病と間違えられることもあり、正確に診断をしてもらうことが第一です。本人は体力や体の機能が残っているから、それを発揮できる場を作って上げることで、機能を持続させることが出来るということでした。

Tさんの 70 歳になる夫は、57 歳の時に脳こうそくで倒れ、11 年間家で介護をしていたが、発作が起きて入院した途端に認知症になってしまったようです。

「私の顔も分からなくなってしまった」「気に入らないと、介護を拒否するので困っている」「自宅で見ていた方がよかったか」と

、いま悔やんでいるということでした。それに対し、大場先生かたは今認知症になったのではなく、多分脳こうそくで倒れてるので、脳血管性認知症になっていたのではないかということでした。

病気のせいでイライラしているようなので、拒否されても、す

ぐに否定しないで聞いて上げるのがよいということでした。他の人達も一斉に「でもなかなかできないですね」と共感していました。

Kさんからは、夫を看とり終わり振り返ってみると、介護で疲れていた時にウォーキングで逢う人が声をかけてくれて、おしゃべりをしたらスッキリしたので、気軽に入れる場所を作るのはどうかと提案がありました。かんたんではないと思いますが、望まれているとすれば、みんなで考えようということになりました。